

**授業概要**

北アメリカ各地に独自の文化を築いたネイティブ・アメリカン（アメリカン・インディアン）諸族について、彼らの歴史と文化を、考古学的・文化人類学的な視点から講義する。異文化を学ぶ際にもっとも必要とされるのは、「もっと知りたい」という知的好奇心と、みずから積極的に調べてみる姿勢である。そこで、授業ではディスカッションを取り入れる予定である。くわえて、「ポスター・プロジェクト」、「フィルム視聴プロジェクト」という、各自の問題意識にもとづいて取り組む課題も用意されている。こうした学びの機会をとおして、みなさん一人ひとりが「大学で学問することの意味」、「みずから学問することの意味」について、深く自問自答していただければ幸いである。なお、講義は日本語で行われるが、簡単な英語で書かれた書籍やオンライン・テキストを教科書・授業用資料として使う予定なので、履修にあたっては十分に注意すること。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション：コースの紹介、授業の進め方、課題の提出、評価の方法など
第 2 回	イントロダクション：「文化」をめぐるさまざまな概念
第 3 回	北アメリカにおける「文化領域」
第 4 回	パレオ・インディアン（先インディアン期）
第 5 回	カリフォルニア
第 6 回	北西海岸およびプラトー（北西部高原地帯）
第 7 回	北極圏・亜寒帯
第 8 回	ポスター・プロジェクト発表会
第 9 回	グレート・ベースン（大盆地地帯）
第 10 回	南西部1：歴史と文化
第 11 回	南西部2：先プエブロ、ホホカム、モゴヨン文化
第 12 回	南東部
第 13 回	北東部（ウッドランド地帯）
第 14 回	グレート・プレーンズ（大平原地帯）
第 15 回	フィルム視聴プロジェクト発表会
第 16 回	定期試験

**到達目標**

1. 考古学・文化人類学的な視点から、ネイティブ・アメリカン諸族の文化について説明できる。
2. ネイティブ・アメリカン諸族が長い年月をかけて築いた独自の環境適応について、その理解を深める。
3. 比較文化論的な視点を用いて、現代世界が抱える諸問題について自分なりの考えを述べることができる。

**履修上の注意**

大学生としての自覚を持ち、みずからの責任を果たすこと。ここでいう「みずからの責任」とは、授業に出席するだけでなく、積極的に参加・発言し、そして課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、みずから取りに来るものである。

**予習・復習**

その日の講義で扱うテーマについて、自分なりの理解や問題意識を持って授業に臨むこと。そのためには、教科書を前もって読んでおくことが望ましい。また、授業後には、学習した内容についてクラスメートと議論を交わし、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題で学んだことを応用しながら、現代世界の諸相を自分なりに紐解いてみる、知的好奇心あふれる姿勢を育てていただきたい。

**評価方法**

以下の方法により総合的に評価する。なお、学期を通じて授業に 2/3 以上出席しないと、定期試験の受験資格を失う（つまり単位の取得が「不可」になる）ので注意すること。①授業参加姿勢 10%、②ポスター・プロジェクト（発表を含む）20%、③フィルム視聴プロジェクト（発表を含む）20%、④定期試験 50%

**テキスト**

- ・教科書名：North American Indian（DK Eyewitness Books シリーズ）＊英語版
- ・著者名：David Murdoch
- ・出版社名：Dorling Kindersley（DK）
- ・出版年（ISBN）：2005 年（978-0756610814）＊出版年・版は問わない